

2018年12月17日

2018年度県内新入社員の「入社半年後の意識調査」

足利銀行（頭取 松下 正直）のシンクタンクである「あしぎん総合研究所」（社長 加藤 潔）は、2018年度県内新入社員の「入社半年後の意識調査」及び企業向けに「新入社員及び採用に関するアンケート調査」を行いましたので、その結果を別紙のとおり発表いたします。今回のポイントは下記のとおりです。

記

入社半年後の新入社員の意識と採用した側の企業の考えを比較したところ、そこから見えてきたものは・・・

調査では栃木県内の企業の2割近くですでに新入社員が退社しており、さらに、転職を考える新入社員の半数近くが5年以内の転職を考えていることがわかった。新入社員が転職したい理由は「自己の成長のため」だが、企業側は仕事や会社の雰囲気との不一致が原因と捉えており、そこには大きな認識のズレがあった。

新入社員は残業の多さや仕事の忙しさは想像以上であったものの、半数以上が「やりがいがある」と答えており現状にはおおむね満足している様子。転職を考える理由は現状への不満というより将来の働き方への不安などからで、キャリアアップとして転職を考えている姿が窺える。企業側には職場全体の処遇の改善、若手社員への成長につながるキャリアパスの提示などが求められている。

以上

本件に関するお問い合わせ先：(株)あしぎん総合研究所 野内（やない） TEL028-908-6112

2018 年度県内新入社員の「入社半年後の意識調査」

企業との認識のズレが明確に

入社半年後の新入社員の意識と採用した側の企業の考えを比較したところ、そこから見えてきたものは・・・

調査では栃木県内の企業の 2 割近くですでに新入社員が退社しており、さらに、転職を考える新入社員の半数近くが 5 年以内の転職を考えていることがわかった。新入社員が転職したい理由は「自己の成長のため」だが、企業側は仕事や会社の雰囲気との不一致が原因と捉えており、そこには大きな認識のズレがあった。

新入社員は残業の多さや仕事の忙しさは想像以上であったものの、半数以上が「やりがいがある」と答えており現状にはおおむね満足している様子。転職を考える理由は現状への不満というより将来の働き方への不安などからで、キャリアアップとして転職を考えている姿が窺える。企業側には職場全体の処遇の改善、若手社員への成長につながるキャリアパスの提示などが求められている。

<調査概要> 新入社員向け「入社半年後の意識調査」(以下新入社員調査)

- 調査期間 : 2018 年 10 月 2 日～18 日
- 調査対象 : あしぎん新入社員フォローセミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県 4 回、出張研修 2 回)
- 調査方法 : セミナーにてアンケート方式
- 有効回答数 : 219 名 (回答率 100.0%)

内 訳	男性	女性	合計
有効回答数	98	121	219
回答率	44.7%	55.3%	100.0%

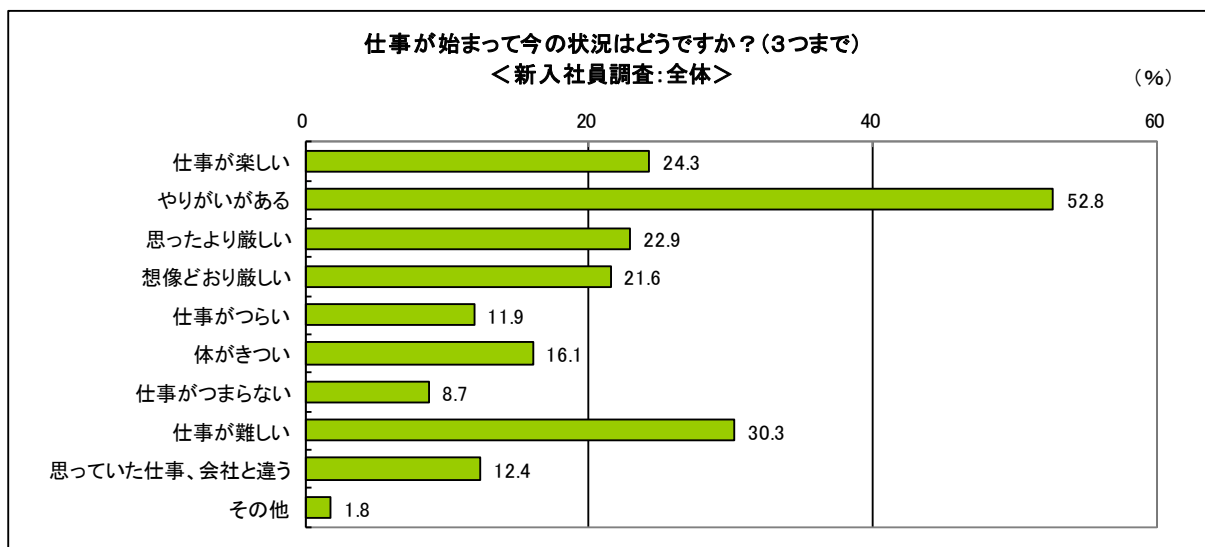
<調査概要> 企業向け「新入社員及び採用に関するアンケート調査」(以下企業調査)

- 調査期間 : 2018 年 8 月下旬～10 月上旬
- 調査対象 : 2018 年あしぎん新入社員セミナー及び 2017 年同フォローセミナー受講企業
- 調査方法 : 郵送によるアンケート方式
- 有効回答数 : 71 社 (回答率 39.9%)

内 訳	製造業	建設業	サービス業	卸売・小売業	その他	合計
有効回答数	21	14	13	10	13	71
回答率	29.6%	19.7%	18.3%	14.1%	18.3%	100.0%

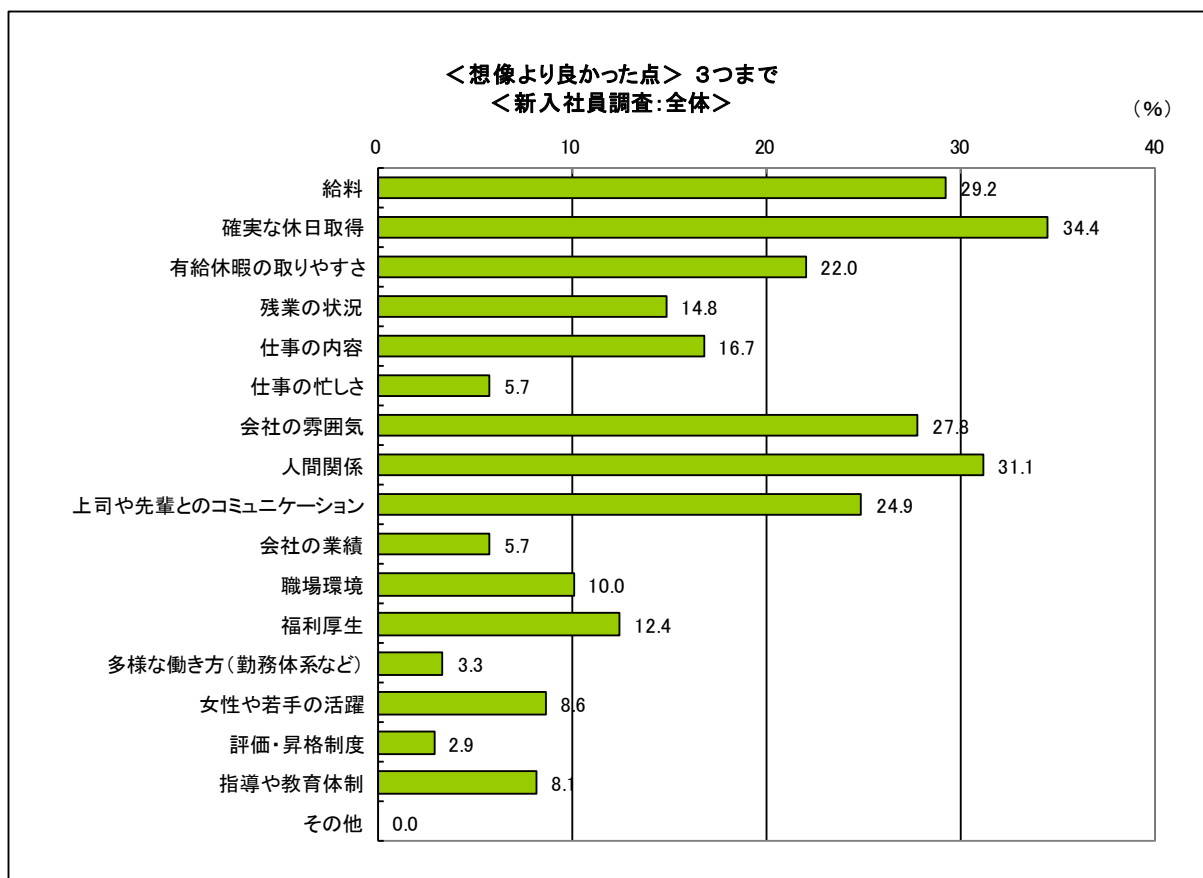
1. 仕事が始まって今の状況はどうか（新入社員調査）

「やりがいがある」が過半数を超え1位（52.8%）。続いて「仕事が難しい」（30.3%）、「仕事が楽しい」（24.3%）の順で、順調な様子が窺える。

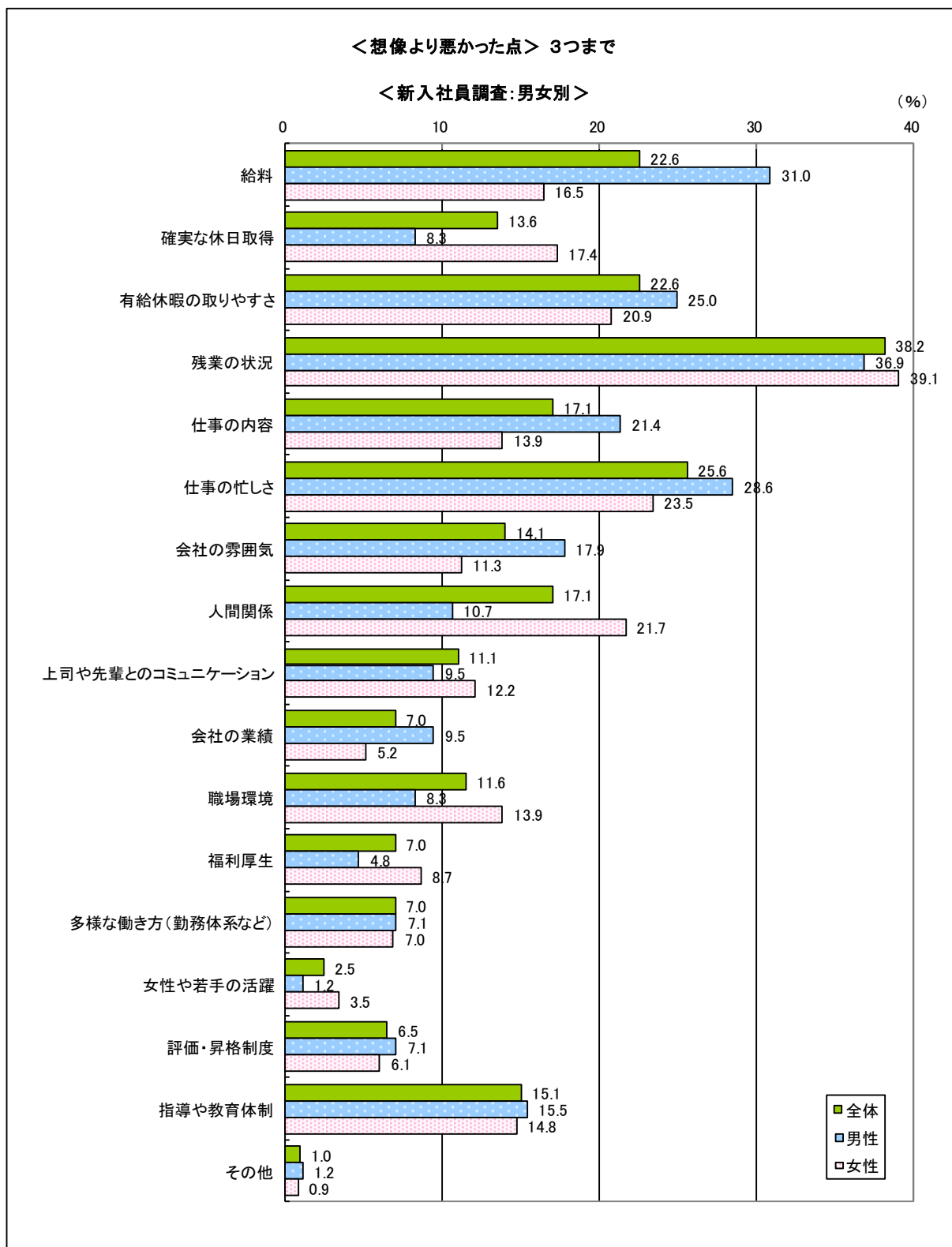


2. 就職してみて想像と違った点（新入社員調査）

<想像より良かった点> 1位は「確実な休日取得」（34.4%）、次いで「人間関係」（31.1%）、「給料」（29.2%）の順となった。「給料」については想像より悪かった点の3位にも上がっており、男女の受け止め方が違っている。想像より「給料が良かった」では男性22.8%、女性34.2%に対し、「悪かった」では男性31.0%、女性16.5%となり、女性は給料に満足し男性は不満に感じている様子がわかる。

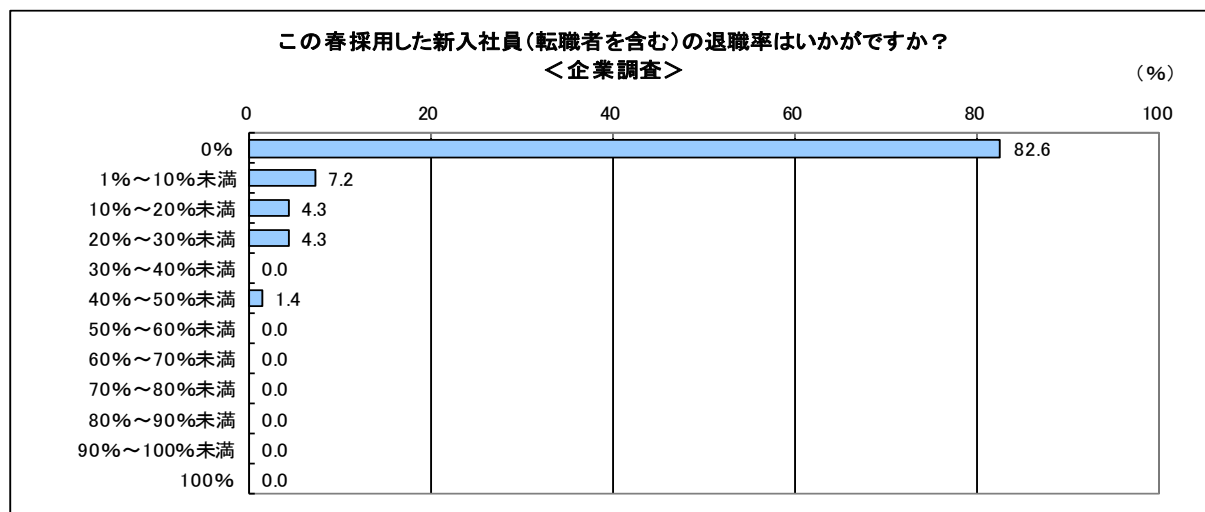


<想像より悪かった点> 1位は「残業の状況」(38.2%)、次いで「仕事の忙しさ」(25.6%)、3位は「給料」と「有給休暇の取りやすさ」(各22.6%)となっている。男女差が大きいのは「給料」「人間関係」「確実な休日取得」。「給料」では男性が女性を大きく上回り、逆に「人間関係」「確実な休日取得」では、ともに女性が男性より高い割合となった。特に「人間関係」については、良かった点の3位にもなっており、女性にとって「人間関係」は微妙なようである。

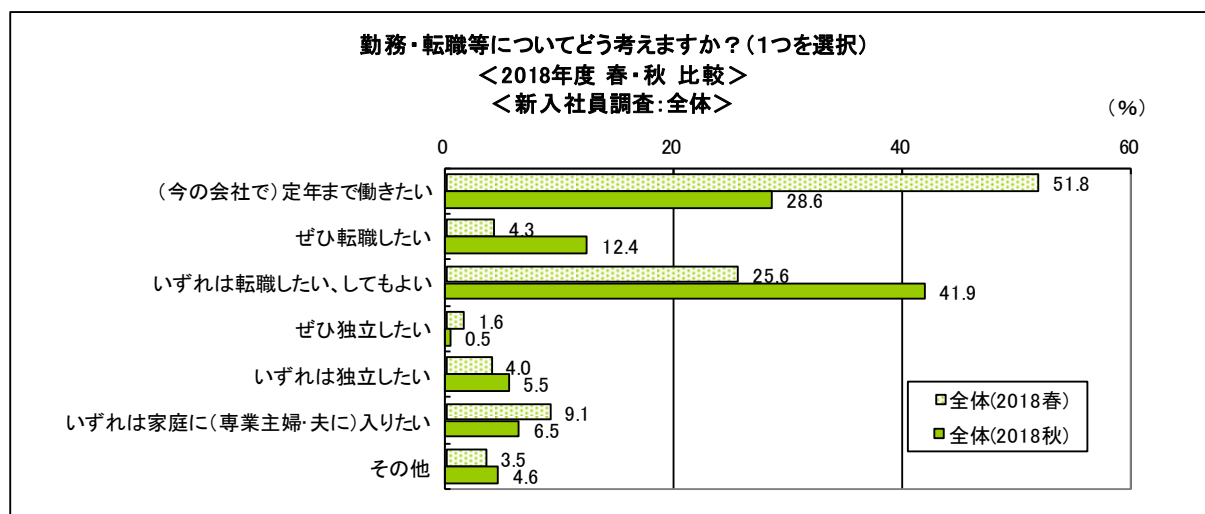


3. 転職等について

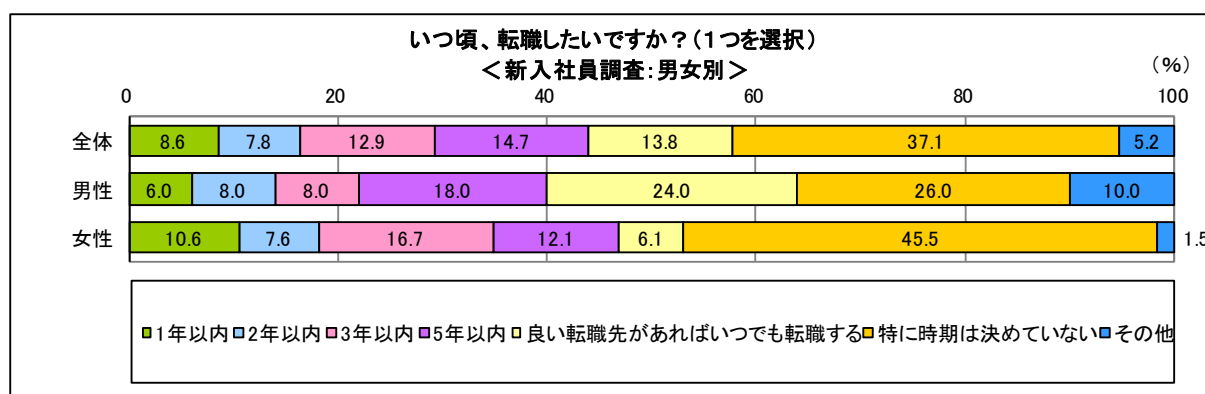
＜入社半年までの退職率＞（企業調査） 退職率については「0%」が82.6%と8割以上の企業では退職者なしとなった。しかし、すでに入社半年で新入社員が退職している企業が12社（17.4%）あり、中には半数近くの新入社員が退職してしまったという企業もあった。



＜今後の転職等について＞（新入社員調査） 新入社員に対して今後の転職等について尋ねたところ、今の会社で「定年まで働きたい」は3割以下（28.6%）となり春の調査から激減。替わって「ぜひ転職したい」（12.4%）、「いずれは転職したい、してもよい」（41.9%）などが増え、入社半年で転職を考える新入社員が過半数の54.3%となった。



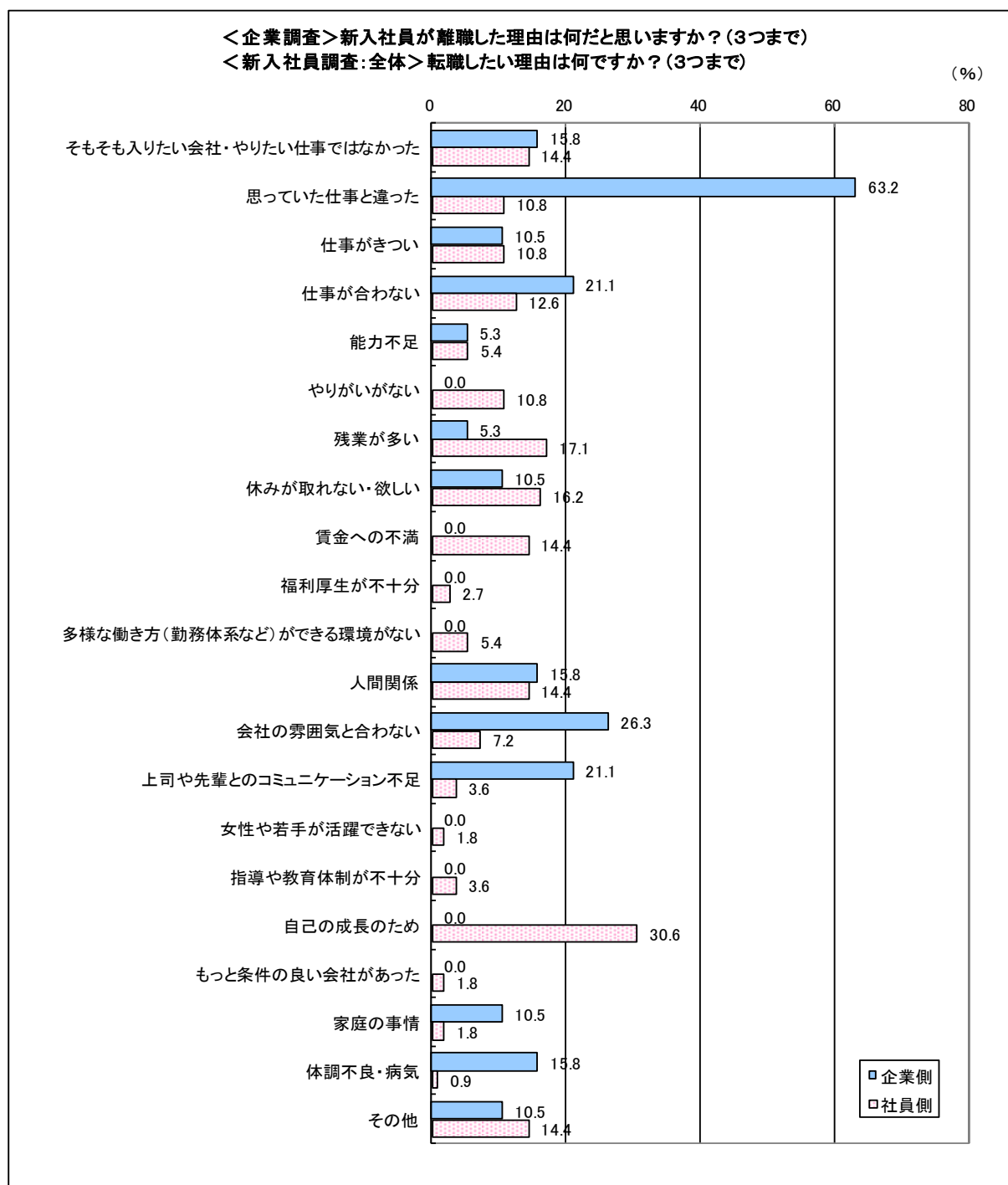
上記の質問で「ぜひ転職したい」「いずれは転職したい、してもよい」と答えた人にその時期を聞いたところ、「5年以内」までを選んだ人が計44.0%と半数近い。一方、「良い転職先があればいつでも転職する」は13.8%となっている。



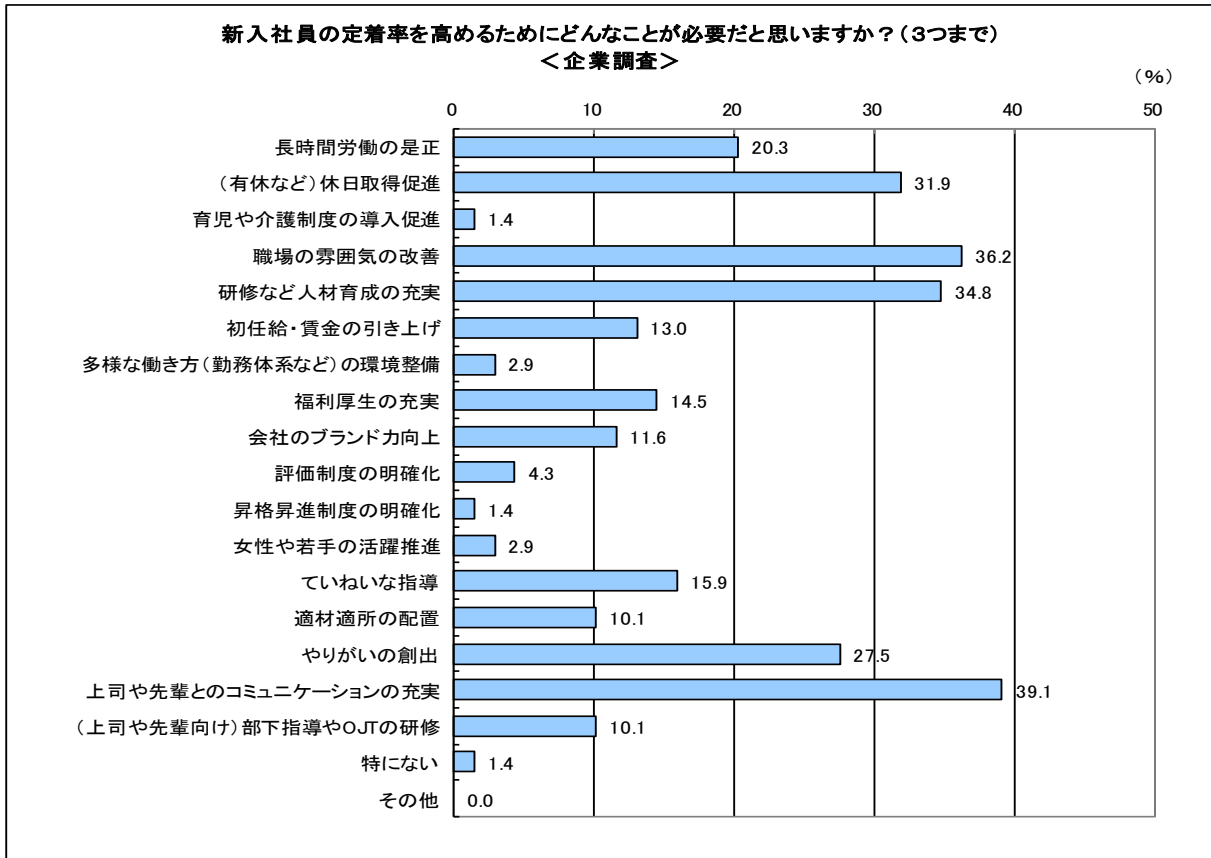
＜企業調査：離職した理由 / 社員調査：転職したい理由＞

企業調査では、新入社員の離職の理由1位は「思っていた仕事と違った」(63.2%)。一方、新入社員調査では、今後転職したい理由として「思っていた仕事と違った」と回答した割合は10.8%で、企業調査と52.4ポイントという大きな差が開いた。次の「会社の雰囲気と合わない」(企業26.3%、新入社員7.2%)、「上司や先輩とのコミュニケーション不足」(企業21.1%、新入社員3.6%)も企業が思うほど新入社員は理由に挙げておらず、両者の差が大きい。

一方、新入社員の転職したい理由1位は「自己の成長のため」で30.6%に上がったのに対し、企業側は0.0%。2位「残業が多い」(企業5.3%、新入社員17.1%)、3位「休みが取れない・欲しい」(企業10.5%、新入社員16.2%)、4位「賃金への不満」(企業0.0%、新入社員14.4%)といった処遇に対する不満も企業との差が大きい。企業は新入社員自身の現状への不満を離職理由と考えているが、新入社員は自己の成長と将来の働き方を見据えて転職を考えていることがわかる。



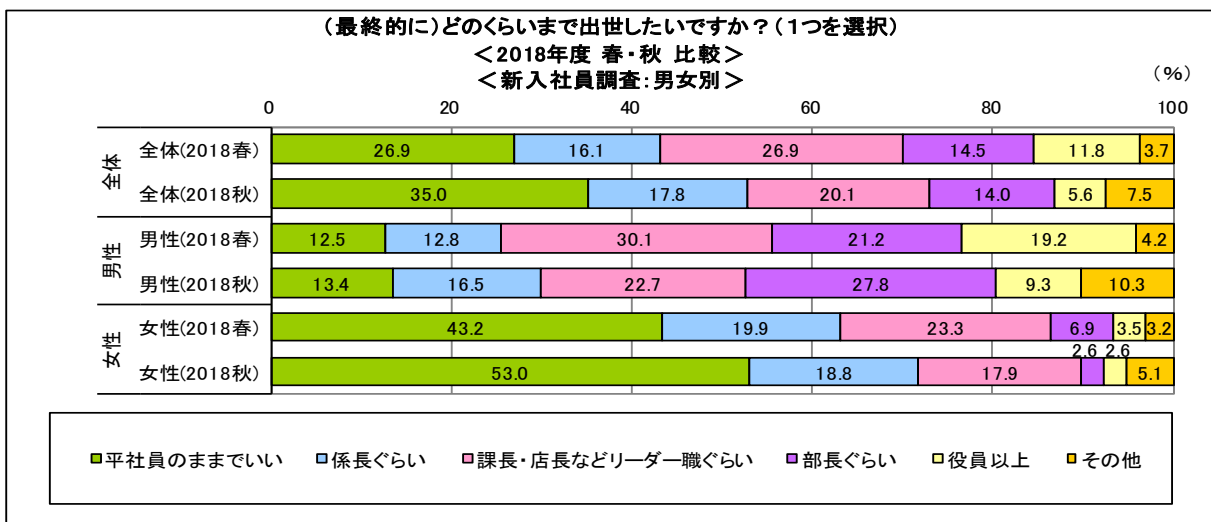
<企業の離職防止策> (企業調査) 新入社員が転職したい理由に「自己の成長」「残業が多い」「休みが取れない」「賃金への不満」を挙げる中、企業が必要と考える離職防止策は「上司や先輩とのコミュニケーションの充実」(39.1%)、「職場の雰囲気改善」(36.2%)、「研修など人材育成の充実」(34.8%)でややズレている印象がある。新入社員が転職したい理由から考えると「やりがいの創出」(27.5%)、「長時間労働の是正」(20.3%)、「(有休など)休日取得促進」(31.9%)、「初任給・賃金の引き上げ」(13.0%)について対策を検討する必要があるようだ。



4. 出世について (新入社員調査)

入社時と入社半年を経過した10月の時点で比較すると、全体では「平社員のままでいい」(26.9%→35.0%)、「係長ぐらい」(16.1%→17.8%)が増え、逆に上位職である「課長・店長などリーダー職ぐらい」「部長ぐらい」「役員以上」が減る結果となった。

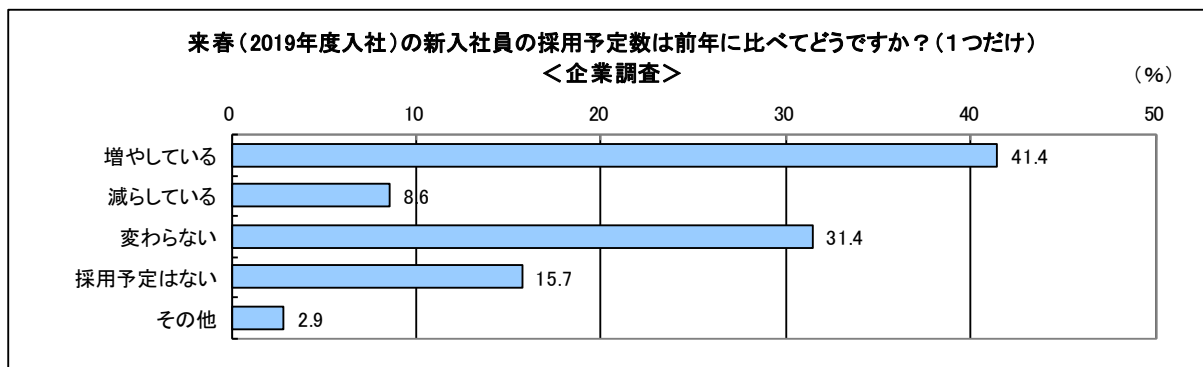
男女別では若干傾向が違い、男性は「部長ぐらい」を目指す人が増加。女性は「平社員のままでいい」が大幅に増え、それ以外はすべて減少している。



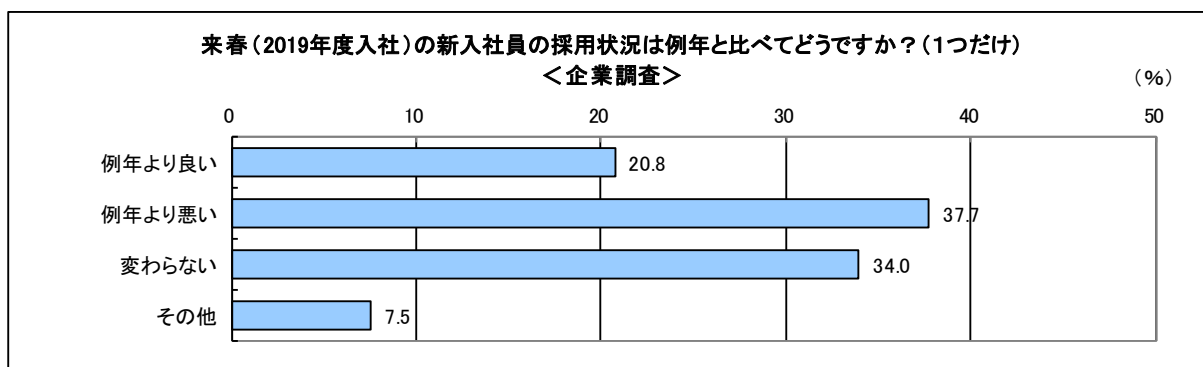
5. 企業の採用状況（企業調査）

4割以上の企業が2019年度の新入社員の採用を増やす計画にも関わらず、採用状況は「例年より悪い」が約4割（37.7%）の回答となった。企業側の意見として「合同説明会、セミナーでの学生動員力が目に見えて落ち込んでいる」（サービス業）、「積極的に前に出ていかないと採用できない。工夫が必要」（製造業）などがあった。特に建設業は「専門性があり入社希望者がなかなか現れない」「土木職などの技術職の採用に苦慮している」と厳しい状況のようだ。

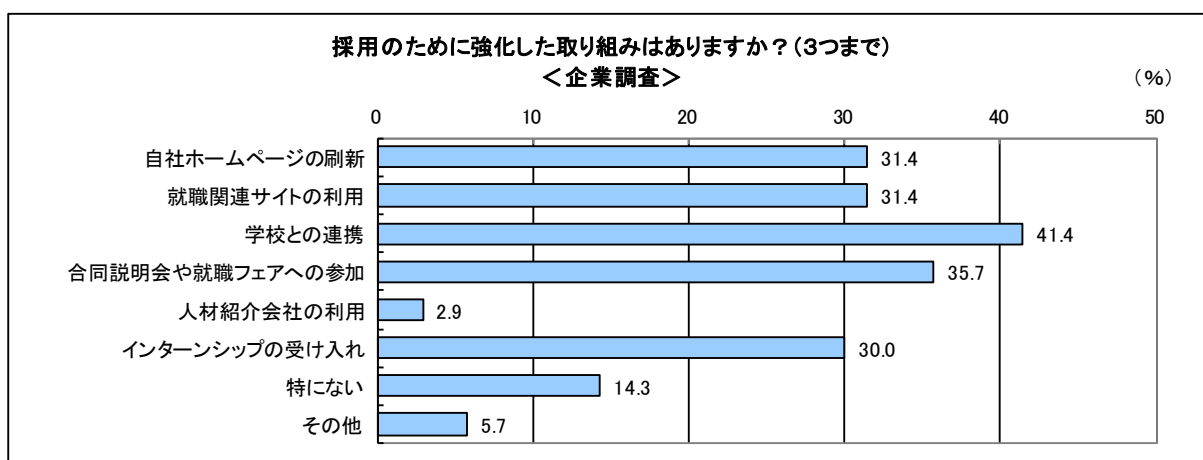
<来春の採用予定数>



<来春の採用状況>



<強化した取り組み>



以上